

○次の文書を読んで、あるの間に答へなさい。

(1) a 「曰はく」は、(誰それが)こう言ったという意味の漢文的な表現です。c 「何如」は、現代文の「いかが」と同じで、「どうですか」と問う表現です。

古人に盾と矛とを鬻へ者有り。之を賣めて曰はく、「吾が盾の堅きこと、能く敵するもの莫きなり。」又、其の矛を善めで曰はく、「吾が矛の利きこと、文に於いて臨さざる無きなり。」と。或ひと曰はく、「子の矛を以つて、子の盾を詰ねば、何如」と。其の人應ふる」と能はざるなり。

5

(現代語訳)

「舊の國の人に盾と矛とを売る者がいた。その盾を自慢して書うには、「私の盾の堅いこと」といつたら、「突き通せるものはないのだ。」と。更に、その矛を自慢して書うには、「私の矛の鋭いこと」といつたら、「どんなものでも突き通さないものはないのだ。」と。「すると」とある人が言うには、「あなたの矛で、あなたの盾を突いたら、どうであるか。」と。その人は答えることができなかつたのである。

(2) この男は「盾と矛」を売つてゐるので、そう答えた
くなるところですが、「之を讃めて曰はく」の内容は、
盾の自慢じまんを指しています。この部分が「又、其の矛を
讃めて曰はく」と対になつてゐることに気づきたいと
ころです。下の現代語訳と、しつかりと読み比べるこ
とが大切です。

——練^{ねり}の意味を現代語で書きなさい。

——練①「之」が指しているもの上の原文中から探し、書き抜きなさい。

——答^답「吾が盾の堅きこと、能く敵するもの裏きなり」とあります、これについて次の問いに答えなさい。

——この意味として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 私は、丈夫な盾を持っているからこわいものがないません。

(3)

① 現代語訳を参考にして、この男が盾と矛を「売つてゐる」ことも含めて考えましょう。

② 盾の自慢に対応している矛の自慢「吾が矛の利き」と、物に於いて陥りやる無きなり。」の中から、同じ役割の字を探します。

ウ この盾を差し通せるのは、私が持っている矛だけです。
エ この盾は、いんな武器でもね返す儀れた品です。
（「戻」の字と同じ意味の漢字を二字、上の原文の中から探し、書き抜きなさい。）
―― 第一「物に於いて」の意味として、最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。
ア 盾などの上に置いて使つるもの
ウ さまざまなものに試した結果として
―― 答へて貰ふこと能はざるなり」とありますか、そうなつたのはなぜですか。二十五字以内で答えて

(4) 「物に於いて」の現代語訳がどうなっているか確認します。構文が違うのでやや難しいですが、「どんなものでも」という意味だと分かります。文意が同じになるのはイです。

(5)	(C)	(1)
話	(吾が) 盾	例 言うには
の	(3)	b 例 錐い
つ	工	c 例 どうであるか
じ	(2)	
つ	無	
ま	(4)	
が	イ	
合		
わ		
な		
い		
こ		
と		
を		
突		
か		
れ		

(6) 「其の人」が、答えられなくなつたのは、盾と矛について自分の言つたことの、つじつまが合つていなかつた（矛盾していた）からです。「突かれてしまつたは「言い当てられた」などとしても正解です。
故事成語には、ほかに「四面楚歌」や「五十歩百

(6) 故事成語 (5) 10 級 德 5 点 × 30

歩」などがあります。

日本語表現
文脈の窓3 営業の分類

小計	(5点×3)=15点
150	☆☆☆
50	☆☆☆
50	☆☆☆
50	☆☆☆

- ① 銀行のほか、学校、会社、病院などの組織には、建物・敷地や、属する人、その活動といった多面的な要素があり、場合によって、主にどの面を指しているかが変わります。

- ② 多義語は、文脈によって意味が変わります。

- (1) 次の名文の一線の言葉が表す意味をあとから「一つずつ選び、記号で答えてなさい。
 (1) 日曜日は銀行がやっていない。
 (2) 町の銀行がお祭りの出し物を競う。
 (3) 銀行は駅のすぐ前です。

ア 銀行の建物や敷地 イ 銀行に属している人 ウ 銀行の窓口業務

(1)	ウ
(2)	イ
(3)	ア

(5点×3=15点)

- 一線の言葉の使い方が同じものをあとから一つずつ選び、記号で答えてなさい。

- (1) 妹が怒って口をきいてくれない。 イ おじは口が悪くて困る。 ウ 料理が口に合わない。
 (2) ア 袋の口がまだ開いてない。 ア 手が貸してくれた。 ウ 手のかかる工事だった。
 (3) 彼が手足りなくて困っている。 イ まだその手があったか。 ウ バスが終わって帰りの足がない。
 (4) 通学の足に自転車を使う。 ア 兄はとても足が速い。 イ 父は足が大きい。 ウ バスが終わって帰りの足がない。

(5点×3=15点)

(1)	形容詞
(2)	連体詞
(3)	形容動詞

(1)	形容詞
(2)	連体詞
(3)	形容動詞

(1)	形容詞
(2)	連体詞
(3)	形容動詞

(1)	形容詞
(2)	連体詞
(3)	形容動詞

(1)	形容詞
(2)	連体詞
(3)	形容動詞

(1)	形容詞
(2)	連体詞
(3)	形容動詞

(1)	形容詞
(2)	連体詞
(3)	形容動詞

(1)	形容詞
(2)	連体詞
(3)	形容動詞

(1)	形容詞
(2)	連体詞
(3)	形容動詞

(1)	形容詞
(2)	連体詞
(3)	形容動詞

(1)	形容詞
(2)	連体詞
(3)	形容動詞

(1)	形容詞
(2)	連体詞
(3)	形容動詞

(1)	形容詞
(2)	連体詞
(3)	形容動詞

(1)	形容詞
(2)	連体詞
(3)	形容動詞

(1)	形容詞
(2)	連体詞
(3)	形容動詞

(1)	形容詞
(2)	連体詞
(3)	形容動詞

(1)	形容詞
(2)	連体詞
(3)	形容動詞

(1)	形容詞
(2)	連体詞
(3)	形容動詞

(1)	形容詞
(2)	連体詞
(3)	形容動詞

(1)	形容詞
(2)	連体詞
(3)	形容動詞

(1)	形容詞
(2)	連体詞
(3)	形容動詞

(1)	形容詞
(2)	連体詞
(3)	形容動詞

(1)	形容詞
(2)	連体詞
(3)	形容動詞

(1)	形容詞
(2)	連体詞
(3)	形容動詞

(1)	形容詞
(2)	連体詞
(3)	形容動詞

(1)	形容詞
(2)	連体詞
(3)	形容動詞

(1)	形容詞
(2)	連体詞
(3)	形容動詞

(1)	形容詞
(2)	連体詞
(3)	形容動詞

(1)	形容詞
(2)	連体詞
(3)	形容動詞

(1)	形容詞
(2)	連体詞
(3)	形容動詞

(1)	形容詞
(2)	連体詞
(3)	形容動詞

(1)	形容詞
(2)	連体詞
(3)	形容動詞

(1)	形容詞
(2)	連体詞
(3)	形容動詞

(1)	形容詞
(2)	連体詞
(3)	形容動詞

(1)	形容詞
(2)	連体詞
(3)	形容動詞

(1)	形容詞
(2)	連体詞
(3)	形容動詞

(1)	形容詞
(2)	連体詞
(3)	形容動詞

(1)	形容詞
(2)	連体詞
(3)	形容動詞

(1)	形容詞
(2)	連体詞
(3)	形容動詞

(1)	形容詞
(2)	連体詞
(3)	形容動詞

(1)	形容詞
(2)	連体詞
(3)	形容動詞

(1)	形容詞
(2)	連体詞
(3)	形容動詞

(1)	形容詞
(2)	連体詞
(3)	形容動詞

(1)	形容詞

<tbl_r cells="2" ix="3"

32 少年の日の思い出 (1)

(P. 154)
P. 168

次の文の空欄に当てはまる言葉をあとから選び、記号で答えなさい。

「少年の日の思い出」は、少年の (1) を描いた物語である。作者の (2) はドイツ出身の詩人・小説家である。執筆者の (3) は東京都出身の (3) である。この作品は、大人になった私と母との会話から、母の少年時代の回想へ移つていく、回想から現実へ戻ることはなく少年時代のままで物語が終わるため、少年の日の思い出が読み手に印象深く残る。

ア 小説家 イ ドイツ文学学者 ウ オー・ヘンリー
エ 心の成長 オ ヘルマン・ヘッセ 力 純朴な心

(1) エ (2) オ (3) イ

次のアーチの各文のうち、——線の語句の使い方が庄じいものを囲ひ繕ひなさい。
(4点×4=12点)

ア ダンスに打ち込む彼女の熱情は、見る人の心を感動させる。
イ ゲームのとりこになった彼は、毎日一時間だけゲームをする。
ウ カギの置き場所をすっぽかしてしまい、見つけられない。
エ 世界的有名な絵画にお目にかかるでとてもうれしい。
オ この作品はすみずみまで丁寧に作られていて、非の打ちどころがない。
力 そり立つ壁に恐れをなして、登ることをあきらめてしまった。

ア エ オ カ

次の——線の漢字はひらがなで、カタカナは漢字で書いて書きなさい。

(4点×8=32点)

- | | |
|-----------------------------|----------|
| (1) 不 能 快な気分になる。 | (1) ふゆかい |
| (2) 微笑を浮かべる。 | (2) びしよう |
| (3) 金メダル獲得に歓喜する。 | (3) かんき |
| (4) 喰 笛 に怖みが走る。 | (4) のどぶえ |
| (5) キンチヨウがほぐれる。 | (5) 緊張 |
| (6) 捕 獲 飛び立てる。 | (6) 越 |
| (7) ズボンのすそをツクロう。 | (7) 繕 |
| (8) 規則違反のバツを受ける。 | (8) 儲 |

解説

1 「少年の日の思い出」の作者は「ヘルマン・ヘッセ」です。「高橋健二」によって訳されました。高橋はドイツ文學者で、ヘルマン・ヘッセの「車輪の下」なども翻訳しています。

2 イ 「とりこになる」とは、一つのことに夢中になり離れられなくなるという意味です。一時間で切り上げられているので、「とりこ」は不適切です。

ウ 「すっぽかす」とは、義務や約束などの自分がやらなければならないことを放つておくという意味です。すっかり忘れてしまうという意味ではないので、この使い方は不適切です。

3 (4) 「笛」は「ふえ」と読みますが、熟語によつては「ぶえ」とにじつて読むことに注意しましょう。

(5) 「緊」の「臣」は「巨」と形が似ています。「又」を「又」と間違える例が多くあります。細かい部分も正しく書きましょう。

(7) 「縫う」は破れた布を糸で直すことなので「いとへん」です。つくりの「善」が「ゼン」という読みを表します。

(8) 「罰」は「罪」と間違えやすいので、区別して覚えましょう。

◇ 次の文を読んで、あとで聞いて答へなさい。

「子供ができるから、自分の幼年時代のいろいろの習慣や樂しみ」とがまたよみがえってきたよ。それどころか、一年前から、僕はまた、チョウ集めをやっているよ。お目にかけようか。」と私は語った。
彼が見せてほしいと言つたので、私は収集の入っている軽い厚紙の箱を取りに行つた。最初の箱を開けてみて初めて、もうすっかり暗くなっているのに気づき、私はランプを取り出でてマッチを擦つた。すると、たちまち外の景色は間に沈んでしまい、「窓はすっかり不透明な青い夜色に閉ざされてしまった。」
私のチョウは、明るいランプの光を受けて、箱の中から、きらびやかに光り輝いた。私たちはその上に体をかがめて、美しい形や濃いみどりな色を眺め、チョウの名前を語つた。

「これはワモンキシタバで、ランプ名はフルミネア。」これらではよく珍しいやつだ。」と私は書つた。
友人は一つのチョウを見、ピンの付いたまま、箱の中から用心深く取り出し、羽の裏面を見た。

「妙なものだ。チョウを見るくらい、幼年時代の思い出を強くそそられるものはない。僕は小さい少年の頃愛情的な収集家だったのだ。」と彼は言った。

そしてチョウをまた元の場所に刺し、箱の蓋を開じて、「わう、けつこう」と語つた。

その思い出が不愉快でもあるかのように、彼は口早にそう言つた。その後、私が箱をしまって戻つてくると、彼は微笑して、巻きたばこを私に求めた。

「悪く思わないでくれたまえ」と、それから彼は言った。「君の収集をよく見なかつたけれど。僕も子供のとき、無論、収集していたのだが、残念ながら、自分でその思い出を消してしまつた。実際話の内容も恥ずかしいことだが、ひとつ聞いてもらおう。」

彼はランプのほやの上でたばこに火をつけ、緑色のかきをランプに載せた。すると、私たちの顔は、快い薄暗がりの中に沈んだ。

(高橋健一著「少年の日の思い出」より)

(1)

——線①「窓は……しまつた」理由として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答へなさい。

ア カーテンを開めたから。

イ 窓に色を塗つたから。

ウ 天気が悪くなつたから。

(2) ランプの光で部屋が明るくなつたから。
——線②「あう、けつこう」と聞いて、「私」はどう感じましたか。文章中の言葉を使って答へなさい。

(3) 「君の収集」とはどのようなものですか。その様子が書かれている一文を文章中から探し、初めの六字を書き抜きなさい。

(4) ——線③「恥ずかしいこと」とあります。恥ずかしさをやわらげるために友人がとつた行動が分かる一文を文章中から探し、初めの六字を書き抜きなさい。

(5) 「私」と友人にとってチョウの収集はどうのようなものですか。最も適切なものを次から一つ選び、記号で答へなさい。

ア 二人の友情のあかし。
ウ 子供じみた、恥ずかしい趣味。
エ 幼年時代の思い出の象徴。
オ 不愉快でも、避けられない連鎖。

(2) A・Bそれぞれ5点、C4点)

(1)	ウ
(2)	例
(3)	不愉快な思い出がよみがえつたようだ。
(4)	彼はランプの光で部屋が明るくなつたから。
(5)	エ 幼年時代の思い出の象徴。

(2) 14点
他の点×4)

◇ 次の文章を読み、あととの問題に答へなさい。

あるとき、僕は、僕らのところでは珍しい青いコムラサキを捕らえた。それを裏廻し、乾いたところに、得意のあまり、せめて隣の子供にだけは見せよう、という気になつた。それは、中庭の向こうに住んでいる先生の息子だった。この少年は、非の打ちどころがない、という悪徳を持っていて。それは子供としては二倍も氣味悪い性質だった。彼の収集は小さく貧弱だったが、小さめのものと、手入れの正確な魚で一つの宝石のようなものになつていて。彼は□、傷んだり壊れたりしたチヨウの羽を、いかわで組み合すという、非常に難しい珍しい技術を心得ていた。とにかく、あらゆる点で、模範少年だった。そのため、僕は妬み、羨慕しながら彼を憎んでいた。

この少年にコムラサキを見せた。彼は専門家らしくそれを鑑定し、その珍しいことを認め、二十六二十七くらいの現金の値打ちはあると俯認した。しかしそれから、彼は難癖をつけ始め、展翅の仕方が悪いとか、右の触角が曲がっているとか、左の触角が伸びているとか言い、□、足が二本欠けて10いるという、もつともな欠陥を発見した。僕はその欠点をいたしたものとは考えなかつたが、こつびどい批評家のため、自分の獲物に対する喜びはかなり傷つけられた。それで僕は二度と彼に獲物を見せなかつた。

(ルマン・ヘッセ著「少年の日の思い出」より)

- (1) 「せめて隣の子供にだけは見せよう」と思った理由を、文章中の言葉を使って答へなさい。
- (2) 「非の打ちどころがない」とは、欠点が見つからぬことであり、本来ならばすばらしいことのようですが、いたずら盛りの子供の目からは「氣味悪い」と感じられる。この少年の「非の打ちどころがない」のは、子供にとっては「□」ことだから。
- (3) 「彼」の特徴を表す言葉の中で、「彼は〇〇だ」と言いい換えられないものを選びます。
- (4) どちらも、前の内容にあとの内容を付け加える文脈です。

- (1) 珍しいチヨウを捕らえて得意になつたから。
- (2) (二倍も) 気味悪い
- (3) ウ
イ
ウ (I) A 7 点、B 7 点
- (4) 文章中の二つの□に共通して当てはまる言葉を次から一つ選び、記号で答えなさい。
- ア それなのに イ そのまま
ウ それでも エ そのうえ
- (5) —— 線④「僕は二度と彼に獲物を見せなかつた」とあります。その理由として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。
- ア 猛物にさんざん難癖をつけて、安い値段をつけようとするから。
イ 貧弱な収集しか持っていない彼に、獲物を自慢しては悪いと思ったから。
ウ 手厳しいことを言われて、獲物を捕らえた喜びを授つけられたから。
エ 彼があらゆる点で模範少年であることを知んでいたから。

——線①の直前から読み取ります。珍しい青いコムラサキを捕らえ、得意になつて「僕」の様子が分かります。

(2) 「非の打ちどころがない」とは、欠点が見つからぬことであり、本来ならばすばらしいことのようですが、いたずら盛りの子供の目からは「氣味悪い」と感じられる。この少年の「非の打ちどころがない」のは、子供にとっては「□」ことだから。

- (3) 「彼」の特徴を表す言葉の中で、「彼は〇〇だ」と言いい換えられないものを選びます。
- (4) どちらも、前の内容にあとの内容を付け加える文脈です。

日	/	/	154
月	/	/	P. 154 ~ P. 168
火	/	/	155

(1) p. 154 ~ p. 169
 読み方
 組立 / / 頂
 水 / / 50点
 50点 理☆☆☆

◇ 次の文譲を読んで、あととの間に答へなさい。

〔僕はクジヤクヤママユを見るために、エーミールの守衛室に彼の部屋へ入った。〕

あいにくあの有名な斑点だけは見られなかつた。細長い紙切れの下になつていたのだ。

胸をときどきさせながら、僕は紙切れを取りのけた。『どう誘惑に負けて、留め針を抜いた。すると、四つの大きな不思議な斑点が、挿絵のよりはずつと美しく、すこしづらして、僕を見つめた。それをみると、この宝を手に入れたいという逆らいがたい欲望を感じて、僕は生まれて初めて盗みを犯した。僕はビンをそつと引つ張つた。ショウはもう乾いていたので、形は崩れなかつた。僕はそれを手のうひらに取せて、エーミールの部屋から持ち出した。そのときも少しすれ僕は、大きな満足感のはか何を感じていなかつた。〕

ショウを右手に握して、僕は階段を下りた。そのときだ。下方の方から誰か僕の方に上がつてくるのが聞こえた。その瞬間に僕の良心は自省めた。僕は突然、自分は盗みをした、下劣なやつだということを悟つた。同時に見つかりはしないか、という恐ろしい不安に襲われて、僕は本能的に、獣物を隠していく手を、上着のポケットに突つ込んだ。ゆっくりと僕は歩き続いたが、大それた恥ずべきことをしたという、冷たい気持ちに震えていた。上がりてきたお手伝いさんと、びくびくしながら擦れ違つてから、僕は胸をときどきさせ、額に汗をかき、落ち着きを失い、自分自身におびえながら、家の入り口に立ち止まつた。

(ペルマン・ヘッセ著「少年の日の思い出」より)

(1) 一線①「紙切れを取りのけた」とあります、「僕」はなぜやう思ったのですか。文章中の言葉を使って答へなさい。

(2) 一線②「僕を見つめた」とありますが、これはどんどうのような様子を表していますか。最も適切なものをお次から一つ選び、記号で答へなさい。

ア 僕が我を忘れと見つめている様子。 イ 僕を身動きでさないようにさせる様子。

ウ 斑点が絵に描いたもののように見えれる様子。 エ 斑点が見え隠れる様子。

(3) 一線③「大きな満足感」とあります。何に対する満足感ですか。文章中の言葉を使って答へなさい。

一線④「盗み」とは、僕にとってどんなことでしたか。文章中から探し、十字で書き抜きなさい。
 一線⑤「恐ろしい不安に襲われて」とあります。このときの「僕」の様子が具体的に書かれている一文を探し、初めの五字を書き抜きなさい。

有名な斑点が、紙切れの下になつていて見えなかつたから。

例 (A) ア (B) ベ (C) クジヤクヤママユを手に入れたこと(に対する満足感)。

(1) 上がつてき (2) 大それた恥ずべきこと (3) クジヤクヤママユを手に入れたこと(に対する満足感)。

(5) (4) (3) (2) (1)

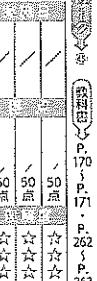
◇ (1) 直前の文から読み取ります。クジヤクヤママユの一番の特徴である「有名な斑点」が、細長い紙切れの下になつていて見えなかつたのです。

(2) 斑点に自分が見つめられていると感じるほど、僕自身がその斑点に見入つていたのです。

(3) 「この宝(=クジヤクヤママユ)を手に入れたいと、いう逆らいがたい欲望」が満たされたのです。「盗み」を言い換えた表現です。

(4) 一行目に「大それた恥ずべきこと」とあります。「盗み」を具体的に書かれています。「びくびく」「胸をときどき」「額に汗」「落ち着きを失い」などと描写されています。

(5) 「恐ろしい不安」に襲われた僕の様子は、最後の一文に具体的に書かれています。「びくびく」「胸をときどき」「額に汗」「落ち着きを失い」などと描写されて



漢字道場4 他教科で学ぶ漢字、次の各文の一線の名詞の種類をあとから一つずつ選び、記号を書きなさい。

(1) その島の人口は三百人ほどです。

(2) (1) あんなことできるはずがないと思つていた。

(3) 明日そちらにかかるいます。

(4) 私の作家は吉森あります。

(5) (4) (3) (2) 横勝できたとは夢のようだ。

ア 普通名詞 イ 固有名詞 ウ 放詞 エ 代名詞 オ 形式名詞

(1)	ウ
(2)	オ
(3)	エ
(4)	イ
(5)	ア

次の各文から名詞を書き抜き、名詞の種類を答えなさい。

では紅茶をいただきます。

どこまで行ってきたのだい。

始めようと思っていたところです。

もう十年もたつたのか。

(4) (3) (2) (1) 次の用言がひの名詞を作り、書きなさい。

重い

帰る

さわやかな

(1)	紅茶
(2)	普通名詞
(3)	代名詞
(4)	数詞

(3) 次の用言がひの名詞を作り、書きなさい。

重い

帰る

さわやかな

(1)	重さ(重み)
(2)	帰り
(3)	さわやかさ

次の——縞のカタカナを漢字に書いて書きなさい。

コフンの発掘。

人間はホニコウ類だ。

なすのシユウカラ。

ヤヨイ時代の土器。

(3)	古墳
(4)	帰る
(1)	哺乳

(4) 3点×4=12点

解説

(1) 数を含み、物の数や順序を表す名詞は数詞です。

(2) 本来の実質的な意味が薄れ、必ず修飾語の下に付いて使われるのが形式名詞です。そのほかの形式名詞には「こと」「ところ」「わけ」などがあります。

(3) 人・場所・物などを指示するが代名詞です。いわゆることあど言葉のうち、名詞の形をしているものは指示代名詞といわれます。「私」「あなた」「彼」など人を指すのが人称代名詞です。

(4) 特定の人・場所・物の名前は固有名詞です。
(5) 「どこ」は、場所を指す指示代名詞です。
(6) 「ところ」は本来の場所の意味が薄れた形式名詞です。

(7) 用言(動詞・形容詞・形容動詞)からできた名詞には、動詞の連用形が名詞化したもの、形容詞・形容動詞の語幹(活用しない部分)に「さ」「み」などの接尾語が付いたものがあります。(2)は前者、(1)・(3)は後者の場合です。